



男女共同参画セミナー

「いのちの授業」

神栖市は男女共同参画を推進する意識啓発を行っています。令和4年度の取り組みとして、龍ヶ崎済生会病院産婦人科医の陳央仁先生を講師としてお迎えし、「いのちの授業」という生教育セミナーを開催しました。小学生や中学生、そして保護者や教師の方々など計50名の参加があり、命の大切さについて学びました。



「赤ちゃんを産むときのお母さんの痛みは、よく鼻からスイカ」といわれるほど大変だけれど、大丈夫。お母さんは、早く赤ちゃんに会いたいから、痛みだって我慢できるんだよ」

いのちの誕生がどれほどの奇跡であるか、いろいろな苦難をくぐり抜けて、やっと誕生した命、君は愛されるために生まれてきたんだよ、というお話のほか、肢体不自由でも「自分のことが大好き」というケニー、「自分らしく」というメッセージを発信した早期老化症のアシュリー・ヘギ、母親の子宮頸管無力症により危険な状態を乗り越えて誕生した奈緒ちゃん。3人の生き方を紹介していただき、生まれてくることの意味を考えました。

講演会后、陳先生にインタビューさせていただきました。内容を紹介します。

Q 大人(親)に伝えたいことは？
A キーワードは一つ

「あなたは私にとって大切な存在なんだよ」

と子どもに伝えるようにしてほしい。

例えば講演を聞いて帰った子どもが「お母さ



ん、赤ちゃん産むときは鼻からスイカなんだって！」と言ったとします。「あんな、そんなこと学校で覚えてきたの？授業と関係ないことばかり覚えてきて！だからこの間のテストの点数こんなだったんですよ。なんでこんなにバカなの」と親が返したら、いのちは大それたよと伝えても水の泡です。親から、あなたは大切なんだよ、生まれてきてくれてありがとうと伝えてほしい。

Q 中学生になったら、なかなか伝えるのも抵抗がありそうです。

A 思春期になってもメッセージは伝えてほしいです。あなたは大切な存在だから、どんなときでも味方になるからね。だから困ったときはいつでも相談してね。怒らないから！と伝えてほしい。

僕も中学生のとき、グロテスクで、母に「こんな悪い子になるなら産むんじゃないか」と言われたほどでした。どうやってそれを元に戻すか、親の忍耐と、うちの子だから大丈夫と信じる気持ちが大それたと思います。僕は親から勉強しなさいと言われたことがないんです。悪く言えばほったらかし、良い意味では、この子なら絶対自分から目が覚める時期が来ると信じてくれていた。父親との関係は最悪でしたが、いじめられて自分が一番つらかったときに父が助けてくれました。

特に中学生を対象にした講演では、親の愛を伝えています。「親になったら分かる。今は分かるは

ずはない。せめて自分らしくしよう。ありのままの自分でいいんだよ。つらいときはつらいって言うんだよ」と。

共感を得ることは大事だと思っているので、特に中学生に対しては自分をさらけ出して話すようにしています。中学生に建前は通じない。本音で話さないと思ってるので。

Q 男子だと、辛いことがあっても打ち明けてくれない人もありそうですが。

A 男女差はあると思います。男性は、男だからそこ耐えなきゃ、みたいなものがあるんだけど、決断していいことじゃないと思う。自分のつらいところ、弱いところは、恥ずかしいことじゃないんだよと、それも伝えていきます。

Q 「性」教育については、いつからどんな風にしたらいいでしょうか。

A LGBTについては、違和感を感じる子は小学生では1%程度といわれています。

思春期の場合は、どんどん変わっていく時期で、揺れ動くのは当然のことだから、親としてどんと構えて、あなたはあなたのままでいいんだよ、と伝えてほしいです。

一番の子どものストレスは親の言う通りになければならないということ。親は子どもを思っただけ、うまくいくようにルールを敷いたりするけど、そのままいくのが幸せかというところから。親ができることは、その子がやりたいことをサポートすること。失敗してもいいよ。



陳先生おすすめ図書



「大人になる前に知る 性のこと」
加納 尚美 鈴木 琴子 編著
ペリカン社



「大人になる前に知る 命のこと」
加納 尚美 編著 ペリカン社
(陳先生 一部執筆)

アンケート結果

参加者のみなさんからたくさんの感想をいただきました。その中の一部を紹介します。

- ・中学校で養護教諭をしています。普段、保健室で子どもたちを見ていると、自己否定が強い子が多いと感じます。これからも「あなたはそのままでもいい」「そのままのあなたが、かけがえのない存在で大好きだよ」ということを伝えていきたいと思います。
- ・アシュリー・ヘギの「できることをできる範囲で諦めないで」という言葉がとても心に響きました。支え合って生きていくことで新しいことをたくさん知ることができると分かりました。今後の人生も前向きに笑って生きていきたいと思いました。

講師紹介

陳 央仁 先生

中学生の時、「自分は生きていても意味がない」と思ったが、そのとき、アフリカの飢饉をニュースで見て、アフリカの子どもたちは生きたくても生きられないのに、僕は早く死にたいと思っている。それが恥ずかしいと感じて、何か自分にできることはないかと考え、それで医者を目指しました。

アフリカで働きたかったのが、アフリカで何が必要かを考えたときに、それが産婦人科医でした。



陳先生はクラウドファンディングで生教育動画を制作されています。YouTubeで『陳央仁医師 いのちの授業』と検索して、動画を見ることができます。ぜひご覧ください。

小学生編



中学生編



高校生編



一般・PTA編

